

バロークレカ事業開始

決済キャッシュレス70%へ

バローホールディングス(HD)は、グループ店舗でのキャッシュレス決済比率を高める。決済サービスが多様化する中、傘下のバローフィナンシャルサービス(VFS、名古屋市中村区)は、JCBのタッチ決済を搭載した「Lu Vit(ルビット)クレジットカード」を発行し、11日にサービスを開始した。自社で展開する決済サービスの充実を図ることで、キャッシュレス決済比率を70%へと引き上げる。

(青山和史)

手数料の外部流出抑制

同HDによると、店頭売り上げのうち、電子マネー「ルビットカード」とクレジットカードで計約60%を支払いを考慮する顧客を囲い込

み、外部に流出するクレジットカード手数料の抑制にもつなげる。

ポイント名は「ルビットクレジットポイント」。通常は200円で1ポイントとなるが、全国のバローグループパートナー約1300店舗ではさらに1ポイント追加する。たまたまポイントは、ルビットポイントやJCBギフトカードに交換が可能。12月31日までは事業開始を記念した入会キャンペーンを展開する。

事業を担うVFSは2021年12月設立。事業の構築や運営に当たっては、十六フィナンシャルグループ(FG)から業務支援を受けた。VFSの担当者は「2025年3月には、バロー

の中で一番使われるクレジットカードに成長させる。特定の商品にポイントをつけるなどさまざまなキャンペーンを打ちたい」と話す。



11日に募集を開始した「Lu Vitクレジットカード」を紹介する担当者＝名古屋市中村区、バローフィナンシャルサービス本社